

「東京保健医療専門職大学紀要」創刊に寄せて

小林光俊 学校法人敬心学園 理事長

《学校法人敬心学園のあゆみ》

学校法人敬心学園の歴史は、1984年に各種学校として日本医療福祉専門学院を開学したことから始まり、2年後の1986年に学校法人としての認可を受け、同学院を日本福祉教育専門学校と改称いたしました。

その後、1996年に日本リハビリテーション専門学校を、2002年に臨床福祉専門学校を開学し、2007年には日本児童教育専門学校(1982年に日本児童文学専門学院として開学)、2013年には日本医学柔整鍼灸専門学校(2002年に学校法人情報学園日本柔整鍼灸専門学校として開学)を統合いたしました。

そして、福祉の臨床現場として地域に貢献するために1996年に設置した社会福祉法人敬心福祉会との連携を図りながら、学校法人の設置から30年以上、保健・医療・福祉・保育分野に専門職人材を送り出してまいりました。

昨今、急速なグローバル化と社会情勢の変化に伴い、あらゆる分野で創造力と実践力を備え、グローバルな視点を合わせ持った実務リーダーが必要とされるようになりました。そのような期待に応え、保健医療分野の実務リーダーとして活躍できる人材の育成を目指し、2020年4月に「東京保健医療専門職大学」を開学いたしました。現在は教職員が力を合わせ、共生社会の実現と発展に寄与する理学療法士・作業療法士の養成に取り組んでおります。

私どもは「敬心」の二文字が表すように、「他人を敬い自らを律し、人々の心をもっとも大切にする」という理念のもと、あらゆる分野で将来を担う有能な人材を育成するための教育事業と、それを研鑽し発展させる研究事業、そして、福祉の臨床現場として地域に貢献する福祉医療事業を展開し、これからも社会に貢献してまいります。

《専門職大学の特色と意義》

我が国における「専門職大学・専門職短期大学」制度は、短期大学制度創設以来55年ぶりの学校教育法の改正により2017年に誕生した新たな大学制度です。

その特色として、大学で学ぶ「創造力」と専門学校で学ぶ「実践力」を併せ持ち、産業界と連携して実践と研究能力を高められるような人材養成をする、つまり「産業界が求めるイノベーション人材」の養成を目的としていることが挙げられます。

私ども敬心学園では、2019年(令和元年)11月11日に、文部科学省より東京保健医療専門職大学の設置認可をいただきました。振り返りますと、2017年(平成29年)1月20日に大学開設準備室を立ち上げてから実に2年10か月、大変長く厳しい道のりではありましたが、陶山学長をはじめ関係者が一致団結して乗り越え

ることができました。お力添えいただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

そして2020年(令和2年)4月、第1期生を迎え開学いたしました。厳しいコロナ禍の中での開学となりましたが、学生支援ポータル「UNIVERSAL PASSPORT(ユニバーサル・パスポート)」を利用したオンライン授業やホームルーム、感染対策を取りながらの対面授業を実施して、今日に至っております。

専門職大学は産業界等と連携し、高度なプロフェッショナルになるために必要な「専門的知識や理論」に加え、「実践的なスキル」を身に着けることができる新しいタイプの大学です。当大学でも、高い学識を持った「アカデミック教員」と、現場の最前線で実務を担ってきた「高度な実務家教員」が、これまでの経験を活かしながら学生の教育にあたっております。

《新しい未来を自ら考え、創造する場としての専門職大学》

医療専門職の場では、患者様の治療と自立支援に取り組むと共に、常に学術的研究や新しい機能を取り込み、エビデンスに基づく様々な知識や考え方をもちクリエイティブな発想をする人材が求められています。新しい知識や価値を築く人材は、新しい時代に活躍する人材になれると考えます。

現在は、世界的なコロナパンデミックや、グローバル化・ダイバーシティ化・デジタル社会への変化、Society 5.0(ソサエティ5.0)等、新しい社会変革の進展と実相の中、時代が大きく変わる転換点であり、先が見えない時代であるとも言えます。

しかし、このような時代だからこそ、起きている現象を注視し、過去の社会を振り返り、足りないものを分析し、新しい未来を自ら考え、創造する機会とも言えるでしょう。

近年、世界の経済や軍事力などの「力の均衡点」が欧米から、成長しているアジアにシフトしている現実の変化にも着目して考えると、日本の新しい役割や可能性が見えてきます。

私は今こそ、逆境でも歩みを止めず、前を向いて生き抜く若い活力による知恵と行動力が求められていると感じています。また、日本の職業教育や高等教育がオンラインの活用やIoT・VR・AI等、時代の進展に対応した様々な機能を取り込み、新しい工夫を重ねることでアジアおよび世界の職業教育のハブ機能を果たすまたとない機会でもあります。

そして、日本の職業教育や高等教育の発展こそが、専門職大学の担う大きな社会的使命であり、グローバルに活躍できる若い活力を育むという重大な任務の一つであると考えています。

今回の紀要では、当専門職大学の記念すべき「第1回学術大会」で発表された医療系および展開科目系の研究・教育に関する論文のほか、教員の研究・教育・社会活動についても掲載しております。この紀要が専門職大学のさらなる発展に寄与することを祈念いたしますとともに、関係者の皆様に改めて御礼申し上げ、創刊の挨拶とさせていただきます。